

四国横断自動車道 斜面对策技術検討委員会（第2回） 議事概要

1. 日時 : 令和 6年 4月25日(木) 10:00～11:30

2. 場所 : 徳島河川国道事務所 5階 会議室

3. 出席者

[委員] ※学識経験者は五十音順

浅井 健一 国立研究開発法人 土木研究所(つくば中央研究所)
地質・地盤研究グループ 上席研究員

蔣 景彩 徳島大学 環境防災研究センター センター長
大学院創成科学研究科理工学専攻
理工学部理工学科社会基盤デザインコース 教授

西山 賢一 徳島大学 大学院 准教授

原田 豊 四国地方整備局 道路部 道路情報管理官

[オブザーバー]

杉本 孝誠 徳島県 県土整備部 高規格道路課 課長

4. 議事内容

(1) 委員会契約について

(2) 検討資料について

1) 委員会の目的と対象地区

2) 現状の地形・地質概要、これまでの経緯・審議事項 等

3) 調査結果 等

4) 追加調査結果を踏まえた斜面对策工法の方針(案)

5. 審議結果

- ・ 於庄谷地区、池内山地区の斜面对策工法は、抑止工と抑制工を組み合わせたものを基本として検討を進めることを確認した。
- ・ 大神子地区の斜面对策工法は、想定されるリスクを低減(災害時に復旧がしやすいこと等)させるものとし、道路構造の見直しも含め、検討を進めることを確認した。
- ・ 追加調査内容について妥当性を確認した。

6. 主な意見

- ・ ボーリングコアから得られる情報は限定的であるため、併せて地下水位を観測することが重要となる。今後、排水ボーリングを設計する際にも繋がるため、観測

をしっかりとやっていただきたいと思います。また、施工時において必要な観測箇所を撤去することとなった場合は代替箇所を設ける等、臨機応変な観測を実施いただきたいと思います。

- ・追加調査により詳細な情報が得られたことで状況がより分かってきたことは非常に良かったと思う。
- ・於庄谷地区について、切土施工時には、深い箇所の滑りに加え浅い箇所の滑りについても施工時の安全性の確保に考慮する必要があると考える。
- ・池内山地区について、オープンクラック（間隙）が施工時の懸念となる。十分に注意して施工を行う必要がある。
- ・於庄谷地区、池内山地区について、抑止工と抑制工を組み合わせながら対策を行っていく方針は問題ないとする。
- ・排水ボーリングについては、降雨時の水位上昇の抑制、を目的とした、フェールセーフのような対策になると思われるため、検討にあたっては、平時・降雨時の水位面を把握したうえで丁寧に検討を行っていただきたい。
- ・大神子地区について、トンネル構造の場合のリスクもある一方、道路構造を変更するにしてもリスクが考えられる。両者を丁寧に検討の上、判断材料をまとめていただければと思う。
- ・追加調査について、想定すべり面近傍の箇所はボアホールスキャナ等で詳細なクラックの分布を確認しておくことが今後のためにも重要だと思う。
- ・今までの経験に基づいて安全性を重視しつつ、最適な対策をしっかりと考えていかなければならない。